



「新型コロナウイルス感染症に関する説明補助資料」について

新型コロナウイルス感染症が散発的に発生している中、各社におかれては、厚生労働省からの事務連絡や、新型コロナウイルス感染症対策の基本方針（令和2年2月25日新型コロナウイルス感染症対策本部決定）などを参考に対策を講じておられると思います。

（参考）直近の厚生労働省等の発信情報

- | | |
|------------|---|
| 2020年2月25日 | 新型コロナウイルス感染症対策の基本方針 (https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000599698.pdf) |
| 2020年2月24日 | 社会福祉施設等（入所施設・居住系サービスに限る。）における感染拡大防止のための留意点
新型コロナウイルス感染症に係る介護サービス事業所の人員基準等の臨時的な取扱い（2） |
| 2020年2月23日 | 社会福祉施設等における新型コロナウイルスへの対応の徹底 |
| 2020年2月21日 | 新型コロナウイルス感染症の発生を踏まえたイベント開催の取扱い等 |

基本方針に記載のとおり、「特に、高齢者・基礎疾患を有する者では重症化するリスクが高い」とされている中、「高齢者施設等における施設内感染対策を徹底する」ことが重要です。引き続き、症状のある職員の出勤停止の徹底や来訪者の制限により、できる限り介護付きホームでの拡大を抑止したいと思います。

今回、首都圏で広く訪問診療を展開されている医療法人社団悠翔会の佐々木理事長が「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の説明補助資料」を作成されましたので、各社における新型コロナウイルス感染症の理解と対策の一助としていただきたく、ご提供いたします。一方で、日々、状況は変わっていますので、継続的な情報収集をお願いいたします。（本発信は、介ホ協HP＞会員専用ページ＞介ホ協バックナンバー＞介護付きホーム会報2019年度に掲載）

1

新型コロナウイルスに感染すると・・・

- 新型コロナは、重症化する可能性のある新型のウィルス感染症。
- 実際には、多くの人は風邪症状のみ。自然に抗体ができて治癒する。
- しかし20%程度が7日後で悪化、「新型肺炎」を発症する。
- 死亡率は2%。しかし高齢者の場合、死亡率は約15%とかなり高い。

症状出現

7日

30日

80%は風邪症状のみで自然治癒。

「今回の風邪は少し長引くなあ・・・」という感じ。
上気道症状と発熱、倦怠感、人によっては消化器症状も。
症状が軽い、無症状の人も少なくない。
7日くらいで自然に軽快する。

20%が重症化→新型肺炎に

強い風邪症状や発熱が4日以上続く、
または強い倦怠感や息苦しさ（呼吸困難）が
出現することがある。

この場合「新型肺炎」として入院治療を行う。
ただし、治療薬はない。

人工呼吸・体外循環などで命をつなぎ、
回復を待つ。

ただし、武漢のデータでは、
80代の死亡率は14.8%。
重症化するとかなり厳しい。
高齢者を感染から守ることが大切！

2%が死亡



2

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の治療

- 風邪症状だけの場合は対症療法で経過観察。
- 病院は受診しない。除外診断はできない。治療薬はなく、重症化の予防もできない。
- 「新型コロナウイルス」が疑われる場合は、相談センターに連絡、指定病院の受診を検討する。
- 重症化した場合、どこまでの医療を希望するか、あらかじめ考えておくことも大切。

① まずは病院に行かず、自宅・施設で経過観察

発熱（37.5度以上）・上気道症状があれば主治医に連絡。指示を仰ぐ。
基本的には「風邪」として対症療法＋経過観察。
病院を受診しない。

【重要！】病院を受診すべきでない理由

- PCR検査は「感染していない」という証明はできない
PCRの感度は高くない（結果が陰性でも罹患していない証明にならない）。検査結果に関わらず新型コロナという前提でケアをする。
- 早めに受診しても重症化のリスクは変わらない
当面は経過観察、自然治癒を待つしかない。
重症化の兆しがあったら、病院受診を検討する。
- 病院には本物の感染者が多数来院している
実際にはただの風邪だったのに、病院で本当に感染してしまう、ということが起こる危険がある。
- 病院の機能がパンクする危険がある
病院での治療が必要な人を受け入れられなくなる危険がある。
本当に具合が悪くなったときに助けてもらえない。

② 状態が悪化する場合に指定病院にて入院・集中治療

- ① 強い風邪症状や発熱が4日以上続く（解熱剤を飲み続けられないといけない、など）
- ② 強い倦怠感や息苦しさ（呼吸困難）

このような場合、速やかに主治医および帰国者・接触者相談センターに相談し、病院受診を検討する。
しかし、要介護高齢者は、重症化すると予後の見通しはかなり厳しい。

入院

集中治療

体外循環人工心臓

多くの要介護高齢者は、集中治療に耐えられない。
体外循環はほぼ不可能。

どこまで治療を希望するかあらかじめ考えておく。
他の病気と同じように、積極的治療をしないという選択肢もある。

3

高齢者施設を「安全地帯」に！

- 施設を地域から隔離する。居住スペースは「安全ゾーン」に。
- 「安全ゾーン」には、外からウィルスを持ち込まないように細心の注意を払う。
- 特に重要なのは帰宅時（来訪時）の手指消毒と手洗い、外来者のコントロール。
- 体調の悪い職員の出勤停止を徹底する。

感染拡大期の面会は原則禁止

どうしても必要な場合にも、居住スペースには入れないようにする。

① 持ち込まない！

施設の入り口で
確実な手指消毒とマスク装着



医療機関には感染者が受診している可能性がある。
感染のリスクが高い。

病院受診をなるべく控える

病状が安定している人は処方のみ。
病状が不安定な人は一時的に在宅医療に。

② もらいに行かない！

人とすれ違う程度の
近隣の散歩などは問題なし！

③ 症状のある職員の出勤停止を徹底

37.5度以上の発熱または上気道症状のある職員は、症状消失から24時間を経過するまで出勤停止を徹底する。



医療法人社団 悠翔会
YUSHOUKAI MEDICAL CORPORATION